

改善方策実施計画書

担当部局：外国語学部

責任者：学部長

幹事：外国語学部事務室

2010年7月16日

認証評価指摘事項						
点検・評価問題点	入試形態と入学後の成績の因果関係を調査する必要がある。					
改善方策	4-13-4 すでに組織している入試対策委員会が主体となり、各種入試による入学生の追跡調査を行い、良質な学生の獲得に資する。					
計画	前期		中期		後期	
	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度
2010 年度実施計画			達成時期	2010 年度取り組み結果		
情報収集 調査案の作成			2010. 12 2011. 03	A 完全に達成	○	B 達成半ば
				(B または C の理由) 本年度の受け入れ学生が確定した段階で作業にはいる。		
2011 年度実施計画			達成時期	2011 年度取り組み結果		
入試対策委員会における調査案の作成と調査結果の分析			2012. 03	○	A 完全に達成	B 達成半ば
				(B または C の理由)		
2012 年度実施計画			達成時期	2012 年度取り組み結果		
入試対策委員会における調査案修正作成と調査結果 (第 1 次)			2013. 03	A 完全に達成		B 達成半ば
				(B または C の理由) 調査結果の検討が履行されていないため。		
2013 年度実施計画			達成時期	2013 年度取り組み結果		
入試対策委員会における調査案の修正と調査結果の分析 (第 2 次)			2014. 03	A 完全に達成		B 達成半ば
				(B または C の理由)		
2014 年度実施計画			達成時期	2014 年度取り組み結果		
入試対策委員会における調査案の修正と結果の分析 (第 3 次)			2015. 03	A 完全に達成		B 達成半ば
				(B または C の理由)		
2015 年度実施計画			達成時期	2015 年度取り組み結果		
				A 完全に達成		B 達成半ば
				(B または C の理由)		

改善方策経過報告書

認証評価指摘事項	
点検・評価問題点	入試形態と入学後の成績の因果関係を調査する必要がある。
改善方策	4-13-4 すでに組織している入試対策委員会が主体となり、各種入試による入学生の追跡調査を行い、良質な学生の獲得に資する。

(2011年3月31日現在)

【現状の説明】

主任会議では行うことを確認した。本年度の受け入れ学生が確定した段階で作業に入る。

所見	今後は、追跡調査そのものの実施だけでなく、追跡調査を継続的に行うための体制作りを考えていくことが必要かと思います。
----	---

(2012年3月31日現在)

【現状の説明】

入試対策委員会で調査案を作成し、1～4年生について入試別の成績調査を行った。今回の調査では入試別の顕著な特徴はみられなかったが、今後調査を重ねるうちに、その傾向がつかめると思われる。

所見	入試別の顕著な特徴が見られなかったという結果そのものを分析する必要があります。つまり、入試別では学生の成績の大きな差がないということが事実なのか、あるいは調査方法に問題があり、今回の結果は事実を反映したものではないのか、を検討する必要があると考えられます。
----	--

(2013年3月31日現在)

【現状の説明】

入試別の顕著な特徴が見られなかったという結果の分析に入っていないため、調査方法の問題が否かについても、結論を出せなかった。

所見	2012年3月の「現状の説明」にあるように、引き続き調査を続け、長いスパンで何か傾向があるどうか見定める努力が求められます。
----	--

(2014年3月31日現在)

【現状の説明】

所見	
----	--

改善方策実施計画書

担当部局：外国語学部

責任者：中村浩一

幹事：外国語学部事務室

2011年6月17日

認証評価指摘事項	【総評】「女子の入学比率を高める」および「中国以外の地域からの留学生の増加をはかる」という目標は、一部学科による女子高訪問や募集活動の実施にもかかわらず達成されていない。					
点検・評価問題点	現在、受け入れ学生の日本語能力が十分でないケースが増えたために、授業の担当者が対応に苦慮している例も見られる。特に交流学生に対する対応は今後十分に検討する必要がある。					
改善方策	4-13-5(新規) 本学部は女子の入学比率について問題はない。中国以外の地域からの留学生の増加をはかる。					
計画	前期		中期		後期	
	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度
						→
2010 年度実施計画			達成時期	2010 年度取り組み結果		
				A 完全に達成	B 達成半ば	○ C 未達成
				(B または C の理由) 今回の認証評価の指摘で始めて問題点を認識した。		
2011 年度実施計画			達成時期	2011 年度取り組み結果		
中国以外の地域の留学生が少ない原因を探る。 (目標は現在の2割増)			2012. 03	○ A 完全に達成	B 達成半ば	C 未達成
				(B または C の理由)		
2012 年度実施計画			達成時期	2012 年度取り組み結果		
中国以外の地域の留学生を増加させる案を作成する。			2013. 03	A 完全に達成	○ B 達成半ば	C 未達成
				(B または C の理由) タイとの交流を開始したばかりである。		
2013 年度実施計画			達成時期	2013 年度取り組み結果		
成案を実施する。			2014. 04	A 完全に達成	B 達成半ば	C 未達成
				(B または C の理由)		
2014 年度実施計画			達成時期	2014 年度取り組み結果		
実施において生じた問題点を解決する。			2015. 03	A 完全に達成	B 達成半ば	C 未達成
				(B または C の理由)		
2015 年度実施計画			達成時期	2015 年度取り組み結果		
目標を達成する。			2016. 03	A 完全に達成	B 達成半ば	C 未達成
				(B または C の理由)		

改善方策経過報告書

認証評価指摘事項	【総評】「女子の入学比率を高める」および「中国以外の地域からの留学生の増加をはかる」という目標は、一部学科による女子高訪問や募集活動の実施にもかかわらず達成されていない。
点検・評価問題点	現在、受け入れ学生の日本語能力が十分でないケースが増えたために、授業の担当者が対応に苦慮している例も見られる。特に交流学生に対する対応は今後十分に検討する必要がある。
改善方策	4-13-5(新規) 本学部は女子の入学比率について問題はない。中国以外の地域からの留学生の増加をはかる。

(2011年6月17日現在)

【現状の説明】

本学部に2における2010年5月1日現在の男女学生数(男/女)は中国語学科(334/218)、英語学科(523/640)、日本語学科(106/153)、学部全体として(963/1011)であり、むしろ女子学生が多い。「中国以外の地域からの留学生の増加をはかる」については、今回の認証評価で指摘され初めて認識したため、2011年以降の課題とし、計画を練った。

所見	
----	--

(2012年3月31日現在)

【現状の説明】

本学部は女子の入学比率について問題はない。中国以外の地域からの留学生を増加させるためには、日本語科目の充実が求められるが、この点については国際交流センターでの日本語科目改編により一部改善がなされている。主任会議で増加策を検討したが、まず経済的負担の削減、宿舍の整備が必要、カリキュラム面の対応も必要であるが、数名の学生のために一学部で独自のカリキュラムを編成するのは経済的に無理があり、これは今後の議論にゆだねるとの結論に達した。

2011年度の中国以外の留学生数は、中国語学科1名、英語学科8名、日本語学科23名。

所見	中国以外の地域からの留学生を増やすための対策は全学レベルで検討されるべき課題でありますから、【現状の説明】にある通り、一学部のみで出来る対策には限度があります。ただし、本学で中国語、英語、日本語を学ぶことが中国だけでなくその他の地域の学生にとっても魅力あるカリキュラムを編成する努力は、留学生のためにも日本人学生のためにも普遍的に重要であると考えられます。
----	--

(2013年3月31日現在)

【現状の説明】

日本語学科では、タイとの交流を深めていく計画が始まりつつあり、タイからの留学生を将来は期待できる。

2012年度の中国以外の留学生数は、中国語学科1名、英語学科1名、日本語学科19名である。

所見	外国語学部では、各学科で独自の協定を結ぶ努力を見られ、大変評価できます。特に東南アジア諸国との交流は今後需要が増すと予想され、今後も大いに推進していくことが期待できます。
----	---

(2014年3月31日現在)

【現状の説明】

所見	
----	--

改善方策実施計画書

担当部局：外国語学部

責任者：学部長

幹事：外国語学部事務室

2011年6月17日

認証評価指摘事項	【総評】退学者および除籍者が少なくないので、1、2年次生に対する学習指導・生活指導の徹底など、退学者を減らすための一層の努力が求められる。」 【総評】導入教育は、推薦入学者に対する事前指導と、初年次に「基礎セミナー」「教養基礎演習」「日本語学基礎演習」を配置して対応しているが、取り組みが不十分なところも見受けられる。						
点検・評価問題点	学生の出席管理を強化する必要がある。 初年次教育を強化する必要がある。						
改善方策	4-15-1 出席不良者早期発見のシステムの運用を強化する。 4-15-2 基礎セミナー等の初年次教育科目において生活指導も含めた総合的な指導を行う。						
計画	前期		中期		後期		
	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度	
						→	
2010 年度実施計画			達成時期	2010 年度取り組み結果			
現行出席管理の再検討。 中国語学科、英語学科は既設の導入教育科目で実施する。 日本語学科は 2013. 04 に導入教育科目を設置し実施する。 学部の退学率 2. 5%を目標とする。			2010. 12	☐ A 完全に達成	☐ B 達成半ば	☐ C 未達成	
				(B または C の理由)			
2011 年度実施計画			達成時期	2011 年度取り組み結果			
新出席管理策案の作成と実施。 退学者問題の分析と対策案の作成。 導入教育経験の交流。			2012. 03	☐ A 完全に達成	☐ B 達成半ば	☐ C 未達成	
				(B または C の理由)			
2012 年度実施計画			達成時期	2012 年度取り組み結果			
退学者問題の分析と対策案の修正。 導入教育経験の交流。			2013. 03	☐ A 完全に達成	☐ B 達成半ば	☐ C 未達成	
				(B または C の理由)			
2013 年度実施計画			達成時期	2013 年度取り組み結果			
退学者問題の分析と対策案の修正。 導入教育経験の交流。			2014. 03	☐ A 完全に達成	☐ B 達成半ば	☐ C 未達成	
				(B または C の理由)			
2014 年度実施計画			達成時期	2014 年度取り組み結果			
目標の達成。			2015. 03	☐ A 完全に達成	☐ B 達成半ば	☐ C 未達成	
				(B または C の理由)			
2015 年度実施計画			達成時期	2015 年度取り組み結果			
				☐ A 完全に達成	☐ B 達成半ば	☐ C 未達成	
				(B または C の理由)			

改善方策経過報告書

認証評価指摘事項	【総評】退学者および除籍者が少なくないので、1、2年次生に対する学習指導・生活指導の徹底など、退学者を減らすための一層の努力が求められる。」 【総評】導入教育は、推薦入学者に対する事前指導と、初年次に「基礎セミナー」「教養基礎演習」「日本語学基礎演習」を配置して対応しているが、取り組みが不十分なところも見受けられる。
点検・評価問題点	学生の出席管理を強化する必要がある。 初年次教育を強化する必要がある。
改善方策	4-15-1 出席不良者早期発見のシステムの運用を強化する。 4-15-2 基礎セミナー等の初年次教育科目において生活指導も含めた総合的な指導を行う。

(2011年6月17日現在)

【現状の説明】

英語学科は既設の導入教育科目で実施した。中国語学科では2010年4月に開設された導入教育科目（教養基礎演習）で、導入教育を開始した。日本語学科では2013年度導入教育科目の開設に向けて検討をした。

出席管理については各学科とも、必修科目の中から科目を指定して出席調査を行った。出席の悪い学生については、学科主任や教務担当教員が呼び出して指導した。

所見	
----	--

(2012年3月31日現在)

【現状の説明】

中国語学科、英語学科はすでに導入教育を実施している。日本語学科は2013年度導入教育科目の開設に向けて検討を行っている。出席管理については各学科とも、必修科目の中から科目を指定して出席調査を行った。出席の悪い学生については、学科主任や教務担当教員が呼び出して指導した。学部の学生支援委員会において、3学科間での導入教育経験に関する意見交換を行い、中途退学者減に対する対策の可能性について議論した。なお、2011年度の退学者数（除籍者含む）は110人であった。

所見	さまざまな側面から退学者数の減らすための具体的な努力をしていることが見受けられます。特に、3学科間での導入教育経験者同士の意見交換は、導入教育に関わっている教員は出来る限り全員関わられるように、また形式的でなく自由に発言出来るような環境を作っていくことが望ましいと考えます。
----	--

(2013年3月31日現在)

【現状の説明】

本学部の学生支援委員会で、数回にわたり退学者の縮減のための具体策を検討した。各学科の導入教育（基礎ゼミなど）を通じて、欠席過多学生の呼び出しなどにより、早い時期退学の予備軍を把握する。

所見	2012年度の退学者数を明記し、昨年度以来の学生支援委員会による様々な努力によりどのような結果が出たのかを示してください。
----	--

(2014年3月31日現在)

【現状の説明】

所見	
----	--